

会報 第57号



発行者 社会福祉法人筑紫会 理事長 吉原 毅
 障害者支援施設 真壁授産学園 電話 0296-55-4007
 〒300-4422 茨城県桜川市真壁町亀熊 1464-1
 障害者支援施設 真壁厚生学園 電話 0296-54-2578
 〒300-4422 茨城県桜川市真壁町亀熊 852
 編集 筑紫会報 編集委員会



「農業支援センター完成／お披露目会」

令和元年 9月5日

目次

- ・行事のお知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 P
- ・令和時代での作業のあり方について／地域にコミット・・・・・・・・ 2 P
- ・マカパンの思い／新たなステージへ・・・・・・・・・・・・・・ 2 P
- ・後援会定期総会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 P
- ・障害者の権利擁護／虐待防止研修／標語 3 P
- ・関ブロ（神奈川大会）今を考える・・・・・・・・・・・・・・ 3 P
- ・行事と外出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 P
- ・成長続ける仲間たち／ドライブレコーダーの設置／奉仕作業 6 P
- ・平成三十年度決算報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7 P
- ・ありがたい風（新人紹介）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8 P
- ・情報発信とお知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8 P
- ・編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8 P

§ 行事のお知らせ §

十月七日	健康診断	(授産・厚生)
十月二十一日	親睦旅行	(厚生)
十月二十七～二十八日	親睦旅行	(授産)
十一月二十三日	合同学園祭	
十二月	クリスマス会	各施設
十二月	忘年会	各施設
十二月二十八日	冬期年末・年始外泊	午前
一月四日	午後外泊帰園	(授産・厚生)
一月四日	仕事始め	(授産・厚生)
一月	新年会	各施設
二月四日～三月三日	真壁のひなまつり出店	
三月	三者面談	(授産・厚生)

祝 農業支援センター竣工 ～これからの筑紫会～

令和時代での作業のあり方について

真壁授産学園 作業主任 藤田浩幸

真壁授産学園では永らく農耕作業による収益を目的とした作業に取り組んできました。学園設立当初から存在する作業班として、規模も少しずつ拡大し成果を上げてきましたが、それに伴い、農耕具倉庫、稲作用乾燥機倉庫、育苗ハウス三棟と設備も増えてまいりました。

しかし、永年の経年劣化、老朽化、新型農耕機具導入による倉庫の狭小等の問題が実際に悩みの種となってきたところでした。そのような状況下、ボランティア（支援員）として授産学園に勤務されていた渡辺雅雄様のお口添えもあり、リニューベ株式会社堀越会長様からの農耕機具等の購入に関わる寄付を受け、厚生学園西側に広がる旧石材業者の土地へ建屋建設の運びとなりました。

▼理事長や設計士様、関係者様のご尽力
建設を始めるにあたり、開発行為等の許可申請など問題が山積し、農業を基盤とする建屋建設に許可が下りるまで、かなり時間がかかってしまいました。その間の設計士様、理事長のご尽力は計り知れないものでございます。そして平成三十年十一月より基礎部分打設の建設工事が始まり、平成三十一年四月から稼働するべく育苗ハウスの建設も筑紫会後

援会様からご寄付を頂き、同時進行で工事を進め、今年度分、育苗苗箱コシヒカリ五百六十枚を生産、田植えを実行するに至りました。

建物もご利用者様の休憩設備を備えた農機具倉庫一棟、既存の建物を改修した乾燥機倉庫が完成し、ぐるりと周囲を囲むフェンスも設置され、六月二十八日には工事が完了、無事、七月九日に引き渡しがなされました。

▼将来的な展望とは？

こういった規模拡大について、将来的展望は、生産部（農耕分野）によるご利用者様への作業工賃の増収と併せ、地区内の農業後継者不足、農業従事者の高齢化に伴う耕作放棄地の増加が目立ってきている事で、何らかの役割に立てるのではないか（社会貢献的な一助を：）と考えています。農村地帯の景観、環境を深刻化させない為にも農業分野と福祉分野の連携、融合が叫ばれている事で私達の力が試されているのではないのでしょうか？
障がいがあるから出来る、出来ないではなく、誰もが働く喜びとして地域に根ざした行動を進めていける基盤こそが、この農業支援センターに課せられている使命であると考えています。

溶岩窯パン工房マカパン 店長 飯島正美

▼マカパン 新たなステージへ

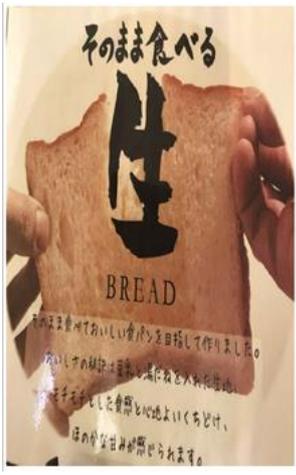
「ぼくはプロのパン職人を知っています。朝早くからパンを作り、遠くまで勉強にも行きます。夜おそくまで仕事をしていることもあります。いつも笑顔です。将来はぼくもマカパンの職人さんのようになりたいです。」ある小学生の作文です。この作文を読んだ時に涙が出そうになりました。このように、マカパンで働かせていただいていると嬉しいことが多くあります。スポーツ販売、地域のイベントへの出店、共同開発、近隣中学校の職場体験等の受け入れもその一つです。『一人の評価は全体の評価に繋がる』ということを全従業員が理解し行動し続けたことが、多くの方の心を動かしていると感じます。そこで私達に関わる方々により多くの感動を与えたいという思いから、利益率重視の志向ではなく、職人志向でマニアックなパンを焼くのではなく『日常に寄り添って地域の暮らしに溶け込んだパン』をテーマに開発を行い、誕生したのが『生食パン』です。繊細な商品で、現在は木曜・土曜のみの限定販売とさせていただいております。オープンから一時間以内で完売することも多く、当法人の運動会でも即完売で大好評でした。木曜、土曜のオープン直後にマカパンへ足を運んでいただけたら幸いです。

後援会 定期総会 開催

去る五月六日（月）、真壁厚生学園地域交流ホームにおいて、「後援会定期総会」が開催されました。

後援会会長、理事長、常務理事挨拶の後、平成三十年度の事業報告、決算承認に続き、平成三十一年度の事業計画、収支予算（案）が承認されました。同時に、年金管理委員会定期総会も行われ、平成三十年年度決算、平成三十一年度予算（案）が共に承認されました。

後援会会長より、働き方改革関連法の施行を踏まえ、若手支援員のスキル向上に資するべく、後援会会員の協力要請、新天皇陛下の即位及び新たな元号を迎え、後援会の更なる活性化に協力要請のお話がありました。理事長より、後援会の協力に対し、御礼と共にご利用者様の高齢化の実情を踏まえ、意見を聞きつつ充実した園生活を支援したい旨の話がありました。常務理事より、若手職員のスキルの向上、後援会の皆様には、様々な機会を通じて、若手職員へ思いを共有していただく事をお願いの報告がありました。



障害のある人もない人も共に歩み幸せに暮らすために

虐待防止・権利擁護研修報告

七月十八日、法人全体で虐待防止研修を行いました。今年、茨城県障害者差別相談室の武田登美江氏を講師として招き、『障害のある人もない人も共に歩み幸せに暮らすための茨城県づくりを目指して』というテーマで講義をしていただきました。

◆障害者権利条約とは？

茨城県では、平成二十七年四月に茨城県障害者権利条約が成立しました。左記は障害者権利条約の一部です。

○差別的取扱い

障害者だからという理由で入店を拒否する、契約や手続きをしない等。

○合理的配慮

障害がある人が生活するうえで、バリア(社会的障壁)を取り除くために必要なできる範囲で行う配慮。

○社会的障壁

社会の仕組みが整っていないことで、障害の特性によってバリアになってしまいう状態。

◆『合理的配慮』について

今回の講師である武田様は、以前に障害者支援施設に勤めていた経験をお持ちとのことで、実際の声を聴きました。例えば、自閉症のご利用者様にお

いて、他利用者様と移動するタイミングをずらすことや、個室で作業して頂いたり、ヘッドフォンをしていただくなど、それらが合理的配慮になるということを教えて頂きました。この合理的配慮ができていないと、強い声掛けを行ったり、腕を掴むなどして無理矢理移動させてしまい、この行為が虐待に繋がるため、十分気を付けてほしいとのことでした。ご利用者様一人一人の障害特性をしっかりと理解し、合理的配慮の行き届いている環境作りを行うことが、いかに大切であるかを学ぶことができました。

◆研修を通して感じたこと

今回の研修を受けて、ご利用者様を支援することは、人の為に役立てる素晴らしい仕事だと感じたと共に、障害特性の理解、障害者制度改革について、更に学ぶ必要があると感じさせられました。今後も定期的にこのような研修を行い、『障害のある人もない人も共に歩み幸せに暮らすための茨城県づくり』を職員一丸となり目指したいと思えます。



虐待防止運動

今回、真壁厚生学園では、虐待防止の取組の一環から、小さな出来事でも未然に防止するよう運動を始めました。

職員皆様のご協力のもと四十二点もの標語が集まりました。その中でも優秀標語三点を選出し、職員だけでなく、ご利用者様、ご父兄様・第三者の目にも行き届くよう、取り組みを事務所、支援部、厨房、中央廊下に掲示しました。

虐待は、虐待をしている本人に自覚がない場合が多いと言われています。標語を掲示することで、改めて自分の日頃の言動を振り返り、見直すきっかけへと繋がるのではないのでしょうか。そして何より、全職員から募ったことで、虐待についてそれぞれが考える良い機会になっています。虐待とは何なのか自分で調べ、自分で学んだこと、感じたことを忘れず、今後の支援に活かしていただけたらと思います。

《虐待防止優秀三標語》

- 考えよう 自分がされて 嫌なこと
- ここにいる 一人じゃないよ 話してね
- 大丈夫？ あなたの言動 見直して！

関東地区知的障害者福祉関係職員研究大会

大野 史奈

関東地区知的障害福祉関係職員研究大会に参加させていただきました。支援方法・社会とのつながり・日中活動について学んできました。自閉症の方の講演を初めて受けさせていただきました。講師の驚きと感心の連続でした。講師の東田直樹氏は『自閉症』について理解し、自分の個性として向き合い、考え方を支援者側に伝えていくという活動をしていました。講演に参加していた方の質問に対して内容を理解し、ローマ字のポイントで答えている姿が印象的でした。普段、ご利用者様の想いに寄り添える支援を心掛けていますが、東田氏の考え方を学ばせていただきご利用者様に対する理解が乏しく、まだまだ未熟であると痛感しました。行動や会話をすることが難しいことから、周囲がご利用者様の可能性を狭め素晴らしい能力を閉じ込めていたのかもしれないと感じました。他施設の実践報告では、ご利用者様の自己有用感や自己肯定感につながるよう、様々な工夫をしており、新たな気付きを得ることができました。この二日間で学ばせていただいたことを他のスタッフと共有し、支援内容を見つめ直し、ご利用者様一人一人の個性を生かした支援を行いたいと思えます。

心に刺された、新たな時代の夏祭り

◆第二十四回合同夏祭り(八月十日)

八月。この月になると、輝く瞳で窓から外を覗くご利用者様が急増します。それは、待ちに待った夏祭りの日が近づいている証拠。数日前からグラウンドではやぐら建てやテント設営が行われており、ご利用者様の気分は本番前から既に夏祭りモード。窓からは覗くことができ、ない授産学園のご利用者様も、きつこの景色を想像しながら笑顔で過ごしていたことでしょう。



夏祭りは夜に行われる唯一の行事。普段は園舎内で過ごしているはずの暗闇の中、甚平や浴衣に着替えて気分は最高潮に。やぐらの上ではこれまた素敵に衣装替えをした職員が踊っており、踊り方が分からないご利用者様も安心して踊っている様子が見受けられました。提灯の灯りに照らされながら踊りを楽しむ時間は、普段の生活から一度離れてまさに夢心地といったところでした。

今年もお忙しい中お時間を割いてお越しいただいた大塚秀喜市長様はじめ御来賓の方々、大勢来てくださったボランティアの方々、楽しく盛り上げてくださったイベントーさん、ご協力を賜ったご父兄の方々に、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

ようか。

もう一つの楽しみである模擬店では、今年初出店のフライドポテトや天ぷらに舌鼓。「ポテト美味しい!」「かけそばに天ぷら乗せたら最高!」といった声がかかれ、新たな商品は大好評で完売御礼となりました。



毎年参加して下さる真壁桜之舞様による迫力の舞、グリーンローズ様による癒しのフラダンスも、夏祭りの雰囲気さをさらに盛り上げていました。最後には、みんなが楽しめる手持ち花火、豪華絢爛な打ち上げ花火もあり、一抹の寂しさを感じながらも大盛況のうちに幕を閉じました。

駆け抜ける!平成最後の運動会

◆第二十三回合同運動会(四月二十八日)

平成の最後を飾るのは僕たちだ! さあ、今年も運動会の季節がやってきました。今年のテーマは「新時代へ駆け抜ける!平成最後の運動会」です。新しい元号に切り替わる節目として今回のテーマになりました。昨年度、十数年ぶりに優勝し、防衛チャンピオンとして負けられない厚生学園と、十連覇以上を成し遂げたものの、今回は惜しくも準優勝となった授産学園の激しい戦いが繰り広げられました。激しい戦いといっても、そこは相手を思いやる優しいご利用者様たち。一生懸命に取り組みながらも、みなさん笑顔で協力し合う姿が印象的でした。

今回のもう一つのコンセプトとして、見ている方にも楽しんでいただきたいという目標を掲げており、新競技としてご利用者様、職員混合で「被り物競争」という競技を取り入れました。トラックを走っている途中で様々な被り物や衣装を身に



つけてゴールするという競技であり、走っているご利用者様や職員はもちろん、見ている方も笑顔で楽しんでいただいている様子が見られました。



また、もう一つの試みとして、ミックスリレーに参加する方々に、コスプレをしてみました。スパイダーマンや勤務先の作業着など、見ている方にも楽しんでいただくために、個性的な格好に身を包み、ゴールまで走り抜けました。デットヒートの末、今年は授産学園が僅差で優勝し、リベンジを果たしました。しかし、閉会式では、勝ち負けを超えて満足感に満ち溢れた両施設のご利用者様の姿がありました。ご覧になっていたご父兄やご利用者様にも、見て楽しめる運動会を実践できたのではないかと思います。今回は「令和初」となるため、今年とはまた違った視点で、趣向を凝らした運動会を開催したいと思えます。

笑顔満開！みんなの思い出DIARY

初夏の風を感じるひととき (厚生)

【令和元年五月二十八日】

今回の創作班外出では、栃木県壬生町にある、とちぎわんぱく公園へ出かけて来ました。公園に着くと、ご利用者様もワクワクした表情を浮かべていました。

公園内を周遊しているわんぱくトレインに乗車。5月ということもあり、爽やかな風が車内を駆け抜けて来て、「気持ちいいね！」と皆リラックサした表情で過ごしていました。昼食は公園内にあるレストランにて摂っています。麺類やご飯もの等メニューが豊富で、目移りしてしまう方も…。それぞれ好きなものを選び、笑顔で頬張っていました。「美味しかったね！」と満足そうな表情がとても印象的でした。その後は敷地内の売店でお土産を購入し、帰路の途中にある道の駅でアイスクリームを食べています。外出中、無邪気な笑顔で楽しんでおり、心身共にリフレッシュすることができた一日となりました。今後

もご利用者様が満足し、楽しんでいただけるような外出を企画していきたいと思



綺麗な魚たちに魅了され… (厚生)

【令和元年七月二十三日】

生産活動班のご利用者様を対象に、アクアワールド大洗水族館に出掛けています。

当日は気温も高過ぎず、過ごしやすい気候の中の外出となりました。アクアワールド大洗水族館では、色々な種類の魚や、イルカとアシカショーを見ることが出来ました。特に印象的だったのはショーで、ご利用者様も「可愛い！」「すごい！」と目を輝かせており、大盛り上がりでした。帰り際にはお土産を買いに行きました。可愛いお土産の前に、何を買うか迷ってしまう方もいましたが、それぞれ思い思いの物を購入でき、嬉しそうな表情を浮かべていました。

昼食は、皆さんからのリクエストで食べ放題のお店に決定！焼肉・お寿司・デザートなど、美味しいものをたくさん食べて、大満足の様子でした。帰りの車内では「楽しかった！」「また行きたい！」などの感想が飛び交い、楽しい時間を過ごすことができました。



みんなで楽しく春を満喫☆ (授産)

【平成三十一年三月二十三日】

穏やかな春を満喫するため、入所ご利用者様全員で希望外出に出掛けました。いくつかの班に分かれて、様々なところに行っています。

石岡方面に出掛けた班は、いちご狩りやポーリングを楽しんでいます。いちご狩りでは旬真っ盛りということもあり、粒の大きいいちごが沢山実っていました。それを見たご利用者様達は大感激！紅ほっぺやあまおう、とちおとめなど様々ないちごを楽しみ、「甘くておいしい！」「いちごが大きくてびっくりしたよ！」と笑顔で溢れていました。その後はポーリングを楽しんでいます。久しぶりにポーリングを行うご利用者様も多く、「うまく投げられるかな！」「いっぱいピンを倒すぞ！」とドキドキワクワクの様子でした。実際プレーを始めると大盛り上がりで、見事ストライクをとったご利用者様は、嬉しそうな表情でみんなとハイタッチし、喜びを分かち合っていました。他の方面に出掛けたご利用者様たちも楽しめたようで、思い出話に花を咲かせていました。また行きたいと話す方が多く、有意義な時間になりました。



BBQで楽しい連休！ (授産)

【令和元年五月二日】

ゴールデンウィークのお楽しみイベントとして、学園で過ごされているご利用者様と共に、バーベキューを行いました。バーベキューを行うと知ったご利用者様はこの日を心待ちにしていました。そして当日、焼き上がるまでの待ち時間には、「楽しみだなあ！」「いい匂いが出てきたね」と会話が弾み、ワクワクしている様子が伝わってきています。そしてバーベキュー会場に移動すると、美味しそうに焼き上がったお肉を見て「うわあ！美味しそう！」と顔をほころばせていました。野菜や焼きそば、フランクフルトそして皆が大好きなお肉を口いっぱい頬張ると、幸せそうな表情を浮かべています。普段の食事よりも会話が弾み、ご利用者様・職員共に親睦を深めることの出来たひとときとなりました。

朝の時点で雨がふつてきそうな空模様になり、皆心配そうな表情を浮かべていましたが、バーベキューを始める頃には皆の楽しい気持ちを通じたのか、晴れ間を見ることが出来ました。今後ご利用者様たちの笑顔のために、このような楽しい企画を立てていければと思います。



日々成長し続ける仲間たち

就職おめでとう！

この度、授産学園に入所されている寺崎卓也さんが、社会福祉法人県西せいかん荘に就職致しました。寺崎さんはエンケイマカベにて作業実習を行っていましたが、生活支援センターなごまの就業支援ワーカー山口様のご協力をいただき、委託訓練を開始し、面接を受け、平成三十一年一月に内定を頂きました。その後三ヶ月のトライアル雇用を経て、同年四月一日付で正式採用となりました。

エンケイマカベで実習を重ねてきた実績と本人の努力が実を結んだ結果と思われれます。今後とも本人の更なる飛躍を期待すると共に、せいかん荘の職員様とご利用者様に愛される職員になる事を願っております。また、これから就職を目指す。この度は就職おめでとうございます。



憧れの車通勤の為に...

グループホーム「タートルベア」から市外のスーパーへパート勤務する中村治彦さんは原付バイクで通勤しています。業務中の熱心な勤務態度が評価され、徐々に勤務時間が増え、今では残業を頼まれるほどになりました。

そんな中、残業後の夜道、風雨、降雪時の交通安全を考慮し、家族と相談した上で、今回軽自動車を購入する事となり、自分で好きな車種、色を選び購入しています。慣れるまでは近場を運転して練

習していますが、慣れれば自動車通勤する予定です。

振り返れば、中村さんは厚生学園や授産学園に入所中、他のご利用者様が夜間に余暇を過ごしている時にも、一人熱心に免許取得の勉強をしていた努力家です。

運転免許取得から就職、自動車購入とひとつひとつステップアップしていき、いよいよ中村さん。次の目標を尋ねると「正社員になってアパートで独り暮らしをして、親を安心させること」と、笑顔ながらも力強く語ってくれました。

「頑張れ！中村さん！」

安全第一！職員を守るドライブレコーダー

数年前までは、一般車にカメラ（ドライブレコーダー）が付くなんて想像もしていませんでした。しかし、今はそれが普通になりつつあります。

ニュースを覗いていると、毎日のように交通事故について報道されています。交通事故と聞くと、衝突事故や対人事故等が真っ先に思いつきますが、最近ではあり運転による事件も大きく報道されています。

事故は自分が気を付けていても、防げない場合があります。対物・対人の事故があった際、お互いに怪我はなくとも、

どちらに過失があったか等、話し合ってもなかなか進展せず、和解ができないことがあるとよく話に聞きます。

法人でドライブレコーダーを購入することが決定し、カメラが付く事であったか、どのような状況で事故が起こったのか等、確認する事ができ、証拠として相手に見せる事ができるといのが、強みであると考えます。

茨城県は車社会。車に乗らない日はありません。車は大切な命を預ける場でもあるため、毎日安全運転を心掛けていきます。

三位一体の奉仕作業

去る七月十三日、毎年恒例の奉仕作業が行われました。厳しい暑さの中、今年も多くのご父兄にご参加いただき、網戸やエアコン、浴室など、普段行き届かない細かな所まで、様々な場所をきれいにすることができました。

ご利用者様とご父兄が協力して掃除を行うという事は、年に一度しかないため、非常に貴重な機会だと思います。休憩時間に食べるアイスも格別なようで、「頑張ったからアイスが美味しー！」との声が多くありました。

また、昨年引き続き、グループホームでもご父兄のご協力を賜り、奉仕作業を行いました。

作業を行いました。作業後にご入居者の声を聞くと、「頑張ったから生活している場所だから、きれいにしないとね。」などの声が聞かれ、きれいになったホームに皆さん満足した様子が見られました。

ご利用者様、ご父兄、職員の三位一体の連携で、毎年各所をきれいに保つていくことができます。ご利用者様の生活の質の向上のため、奉仕作業の時は、継続して環境整備に努めて参ります。

最後に、ご協力いただいたご父兄の皆様、この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございます。

平成30年度決算報告

社会福祉法人 筑紫会

資金収支計算書

(自) 平成30年4月1日 (至) 平成31年3月31日

(単位: 円)

勘定科目	決算額
事業活動収入	517,736,469
事業活動支出	432,645,761
事業活動資金収支差額	85,090,708
施設整備等収入	6,294,798
施設整備等支出	49,647,666
施設整備等資金収支差額	-43,352,868
その他の活動収入	59,299,050
その他の活動支出	87,700,020
財務活動資金収支差額	-28,400,970
当期資金収支差額合計	13,336,870
前期末支払資金残高	234,728,011
当期末支払資金残高	248,064,881

事業活動収支計算書

(自) 平成30年4月1日 (至) 平成31年3月31日

(単位: 円)

勘定科目	決算額
サービス活動収益	512,844,662
サービス活動費用	459,318,570
サービス活動増減差額	53,526,092
サービス活動外収益	5,746,607
サービス活動外費用	2,686,420
サービス活動外増減差額	3,060,187
経常増減差額	56,586,279
特別収益計	6,000,000
特別費用計	148,797
特別増減差額	5,851,203
当期活動増減差額	62,437,482
前期繰越活動増減差額	326,643,008
当期末繰越活動増減差額	389,080,490
基本金取崩額	0
その他の積立金取崩額	58,039,600
その他の積立金積立額	85,500,000
次期繰越活動収支差額	361,620,090

貸借対照表

平成31年3月31日 (単位: 円)

資産の部		負債の部	
流動資産	283,931,396	流動負債	52,232,423
固定資産	2,087,393,661	固定負債	28,561,170
		負債の部合計	80,793,593
		純資産の部	
		基本金	326,992,931
		国庫補助金等特別積立金	95,720,403
		その他の積立金	1,506,198,040
		次期繰越活動増減差額	361,620,090
		(内当期活動収支差額)	62,437,482
		純資産の部合計	2,290,531,464
資産の部合計	2,371,325,057	負債及び純資産の部合計	2,371,325,057

あたらしい風

新任職員紹介

新任職員の皆さんをご紹介いたします。紹介文は、①出身地②趣味③好きな言葉④メッセージを伺いました。

真壁授産学園

支援員 齋藤 功太郎

①笠間市 ②卓球

③笑う門には福来る

④ご利用者様の皆さんが笑顔になれる環境をつくり、その笑顔を守る職員になりたいです。ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

支援員 鹿野谷 仁美

①筑西市 ②音楽鑑賞

③失敗から学ぶ

④これからもご指導の程宜しく申し上げます。

真壁厚生学園

支援員 児玉 百合香

①真岡市 ②ドライブ、音楽を聴く

③呉越同舟

④足を引っぱってしまうこともあると思いますが、精一杯がんばりますのでよろしく申し上げます。

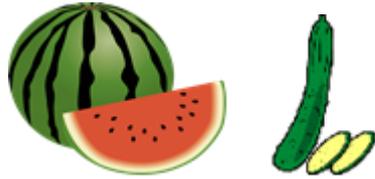
ありがとうございます 善意の心

真園会様

今年も真園会様より両学園に新鮮なスイカとキュウリを寄贈頂きました。

早速、ご利用者様、職員共々、食事の時間に頂きました。皆、「おいしいね！」「もつと食べていい？」と、あちらこちらのテーブルから声が聞かれました。

毎年、おいしい野菜を頂き、本当にありがとうございます。お心遣い、感謝申し上げます。



調理員 大久保 節子

①結城市 ②登山

③人生一度きり

④一日でも早く仕事を覚えて、皆様のお役に立てるように頑張りたいと思います。

退職者、入・退所者のお知らせ

▽退職者 3/31付

支援員 猪野木 一也 (授産)

調理員 田村 優香 (授産)

調理員 土田 良子 (厚生)

支援員 太田 友恵 (厚生)

8/15付

調理員 生井 敏子 (厚生)

▽入・退所利用者

入所ご利用者様【通所】

2/1付 増渕 浜子 (授産)

3/18付 古宇田 大地 (授産)

9/1付 小池 一義 (授産)

退所ご利用者様【入所】

6/3付 坂入 二三男 (授産)

6/20付 寺田 雅貴 (授産)

6/28付 行田 まどか (授産)

退所ご利用者様【通所】

3/31付 石塚 香 (授産)

5/13付 岩渕 和男 (授産)

7/12付 竹井 瑛莉香 (授産)

お悔やみ申し上げます

令和元年五月十三日、真壁授産学園の通所をご利用頂いておりました岩渕和男様が永眠なさいました。

職員並びに利用者一同

ご冥福をお祈りいたします。

☆平成三十年度表彰受賞者☆
受賞おめでとうございます。

皆様、優良安全運転者として、また、安全運転と防火管理の優良事業所として表彰を受けました。

☆関東安全運転管理者協議会連合会長 連盟表彰

支援員 丸山 武志 (授産)

支援員 谷貝 和子 (授産)

☆茨城県安全運転管理協会長連盟表彰

事務長 吉原 依子 (授産)

☆桜川地区安全運転管理者協議会会長 連盟表彰

真壁厚生学園

☆筑西広域防火管理協議会会長表彰

真壁厚生学園



編集後記

今年も梅雨明けと共にとても暑い夏となりました。秋の気配を感じる季節となってきましたが、そろそろ夏の疲れも出てくる頃かと思えます。秋はおいしい食べ物、読書、スポーツ、行楽など、過ごしやすく楽しめる時期です。まだまだ残暑が厳しいですが、体調に気をつけてお過ごしください。